

●京の川の恵みを生かす会

10月14・15日 京都大学防災研究所 宇治川オープンランドリー京都市伏見区横王子下三栖東ノ口。竹蛇籠などのご指導をいただいている竹門康弘京都大学准教授からご案内をいただいた。

今年のフォーラムで、ぜひとも竹蛇籠の取組みの報告を行ってほしいという依頼であった。ここ3年間、竹蛇籠づくりや生物調査について報告してきた。今年の中聖牛についての取組みとのことであった。私が報告するのも年齢から無理ではないかとして、京都大学院生の小林君に依頼をすると快く引き受けてくれた。一安心とパワーポイントの製作から逃れられると胸をなでおろした。ところが彼は、この日九州の学会で研究会が開催され関西に居られないことが伝えられた。当日の発表資料は全部作成しておきますからということで画像の説明だけなら、ということで引き受けてくれた。当日、気楽な気分で出席しリラックスして発表に耳を傾けた。いい勉強の時間であった。最終発表前だった。皆さん疲れているだろうから集中しないと思って高をくくっていた。順番が回ってきた。演壇に立って発表の映像が映されると待っていたが一向に映写されない。すると資料が準備されていないことが判明した。映像を頼りにして演壇に立っているが、映像が準備できていないことが明白になった。まったく予期もしていない事態になった。しかしもう演壇に立っているので引き返すこともできない。考えていないのに、今日は三つのお話をするという時間稼ぎの出まかせを口走りながら。頭を回転させて、何とか15分間の持ち時間をクリアした。よくもこの専門集団の前で喋れたものだと思ひ自画自賛するしかなかった。主催者の竹門先生には真に申し訳ないことになってしまいました。人生これほど厳しい窮地に立たされた経験はなかった。

●竹蛇籠の製作 27基完成 10月16日(月) 有田、森島、山村 27基 26基目…森島、有田、山村

9月4日に竹の切り出しと運び込み、そして割り作業が行われて、竹蛇籠の組み立てが始まった。2年前再び竹蛇籠を組むなどということはないだろうと思ひ、できればいいという気持ちで取り組いたので、2年ぶりに自力で27基の蛇籠を作り上げなければならないことになった時、深く自己反省している。全く頭の片隅にでも組み立て方や手順書のかけらでも残っておれば計算や見通しが立つものですが、全くその資料がなくて、ぶっつけ本番、見よう見まねでの挑戦となった。前回は15本を編み上げたが、それは静岡の原小組さんの方々が必死になって作り上げていただいたもので、我々がその気になって取り組んでいなかったから、手順書を思い出すことができなかった。しかし、里山の会の仲間は、なんとしても作り上げていくのだということが幾度かの会議で腹が固まり、挑戦することを確認した。まさに暗中模索とは、このことを言うのですが、誰一人としてリーダーになって牽引する人は居なく、試行錯誤の繰り返しの中で、少しずつ学習することを学び深めながら、ことを進めることになった。折角作り上げるといふ強い気持ちで参加しても、一向に蛇籠らしきものは作り上げることはできない。この続きは明日と不完全のままに横たわる未完成品を横面で眺めてただけで、また明日と断念して帰宅しました。このような出来上がらない日々が連続して続くわけですから、やりがいがない日々が随分と続きました。10月2日雨がはげしく降る日の午後、福井波恵さん宅を訪れ、これまでの成功しない原因を考えてきたが、最後の1本加える所と胴巻きの関係に問題があると提案した。いよいよ最後に大勢の人に参加を呼び掛けている7、8、9日を目前にしていた。まさにここで解決しないと大失敗が明白になるという時期であった。福井さんも私もまさに必死の思いが強かった。そして7・8日を迎えた。何とか7日には7本を組み上げられた。翌日8日には8本が出来上がった。なんと、この両日で延べ参加者は54人となった。しかも8日は午前中、生き物調査に出かけている。午後の半日の作業で8本ものを作り上げた。しかし、正確に間違いなく作り上げられるように整理ができなかった。伊奈さんの経験にものを言わせて組みあがっていったものです。4本ならなんとかなるだろうということで気が緩み迫力を失った。土日が過ぎ一週間瞬く間に過ぎた。最後の勇気やる気を起こして挑戦した。出来高に気を奪われてきたが、ここまで来たのだから失敗しても、やり直せばという気楽な気持ちで、森島式、有田式、山村式とそれぞれが考

える方式を試してみることにして製作をした。やっとポイント急所が少しわかったような気がして、27本が出来上がった。しかし完全にマスターしたという段階には到達できていません。何とか形を作る所です。今回の竹蛇籠づくりには約1か月半を要しましたが、いい経験となりました。この技術を忘れることなく、もっと小さな枠になるよう研究したいと思っています。有田さん福井さん森島さん深田さんそして九州から来られた松本さん、本当によく考え工夫し完成にこぎつけていただきました。お礼申し上げます。

●いよいよ中聖牛の設置 10月21日(土) 10時より16時 を計画通り実行をする予定です

17日に現場にて確認作業を行う予定をして居ましたが、先日の雨で木津川の水位が50cm上昇していて、現場は水中に埋没しています。水位は、徐々に低下は考えられますが、最終決定を19日(木)14時に現地で判断することになっています。竹門先生と淀川河川事務所環境課長稲垣氏、木津川出張所所長堂下氏、里山の会の山村と、コンサルタントの5者で決定いたします。情報はホームページで公表しますので、確認ください。里山の会ホームページは、通常午前中に更新しますが、特別に体制をとってホームページで15時ごろには公表いたします。

●設置作業の実施についての判断ポイント

秋雨前線による降雨と水位上昇。そして台風による降雨と暴風です。22日には沖縄付近との位置情報ですが、その後の進路と影響です。そして24・25日ごろと予想される本土接近による水位上昇も勘案する必要があります。加えて水位低下への期間も考慮しなければなりません。大変難しいところに差し掛かっています。

●中聖牛設置と玉石投入 竣工式

諸条件が順調に進んでいくと仮定するとして、取り組みをお知らせ致します。21日(土)は午前8時ごろに中聖牛の木枠を組んでいただくために、静岡県島田市の原小組さんが到着します。資材は前日までに現場に運んでおきますので、組立に入っていただきます。聖牛建設は3基を予定していますので、3基を組み、でき次第設置場所までユンボで運んでいただきます。そして蛇籠を乗せ並べが整うと玉石入れを実施します。玉石入れをご来客の皆様にバケツリレー方式で次ぎ次ぎと投入します。3基分に運び込みができなかった場合は、翌日22日(日)の午前中にやり遂げます。こうした組立と玉石詰めは午前中にできるだけ完成させる予定です。一方竹蛇籠の製作を行いたいという皆さんには、天候にもよりますが、玉水橋の広場で挑戦をお願いします。

そして午後1時から竣工式を行います。参加者全員の集合写真撮影を行って15時30分にはすべて終了の予定としています。原小組さん6人は15時ごろには静岡に向かって出発される予定です。できるだけ多くの皆さんに玉石の投入を経験していただきたいと思っております。気軽にご参加ください。友人知人の方々にお知らせお誘い併せてください。竣工式の後半では、みんなで川と水にかかわる歌声を予定しています。予定が合えば、関西合唱団の独唱と美声が聞かれることもあるかもしれません。楽しみにお越しください。

●河川レンジャー 運営会議 17日 精華町 クスノキ園

2017年度の河川レンジャー新人の任命式が行われ、木津川域での活動を希望されている村上ゆいさんが任命されました。これで現役レンジャーは中西佳代さんと2名になりました。再任されて最終年度を迎えておられる田中さんと山段を加えて下4人体制となりました。会議には京都府、城陽市、八幡市、京田辺市、精華町、久御山町、井手町、の行政関係者も参加していました。運営委員会の委員長の満田先生や副委員長の角先生と委員の播川さん、そして現職レンジャーの山田さん田中さん小林君から多様な活動が報告され、あっという間の2時間でした。

●木津川希少種植物調査について

10月2日に発注するとの文章が届きましたが、18日現在契約書の取り交わすところまで到達できていません。当初の計画では10月早々に業務に着工できると見通していました。なかなか順調に事は進まな

いように思えます。里山の会は 21 ヲ所の管理区域の除草と、21 ヲ所を含む 107 ヲ所の希少植物の生育箇所の調査を行うことになっています。この作業にお手伝いをお願いできる会員さんがおられましたら名乗り出ていただければ大変助かります。作業時間は午前中 2 時間と考えております。ご連絡をお待ちしています。

●京田辺市市民文化祭 11 月 4・5 日 展示発表と模擬店の出店

市民文化祭という市民上げての取組みなのですが、ここしばらく地域からの出店数がかなり減少しているように見えます。その一方サークル活動による展示が徐々に増加してきているようです。そして固定化してきている様子も顕著のようで、成長や発展、新鮮さや特徴など通年化している印象を受けます。里山の会はこうした流れの中で懸命に活動を継続しながら発展と変化を求めて躍進を目指しています。展示物では絶滅の恐れのある生き物と京都府が絶滅危惧種に指定しているカスミサンショウウオの成体発見は今年 1 月の一大発見です。そして故郷の川木津川における中聖牛の設置は画期的な建設で護岸や水勢制御を目標にした装置は関西地方ではおろか九州・大分や中国・広島からも製作に来られるなど注目と関心をいただく成果物です。台風の影響で建設が完成出来ない場合もありますが、画期的な成果物です。又。今年の最大の発刊物である。木津川の植物花写真集も素晴らしいせいかぶとであります。これ等の展示物を準備中です。一見に値する活動紹介です。ご期待ください。また出店では里山農園で生産した秋野菜の販売も例年どおりご期待に副うものです。こぞってお越しください、いずれも販売物は数に限りがありますので、売り切れ御免としています。

●城陽市環境パートナー活動発表会 11 月 5 日 城陽市文化パーク

城陽市寺田の文化パルスで里山の会が活動紹介展示を行います。発見したカスミサンショウウオの生育環境を夏の親子で遊ぼう学ぼう魚とりの集合写真なども展示します。ご期待ください

●会誌 43 号最終編集作業を実行中

駆け込み原稿を受付中 31 日（火）10 時から 印刷製本作業行います。そのための事前の校正作業のお手伝いをお願いします。事務所にお越しただいて点検ください。